



— 秋風をいっぱい受けて —
おとまり保育を終えて

平成14年10月7日
つるた保育園さくら組

子ども達が指折り数えていたおとまり保育は朝から汗ばむような最高の天気によった。きっと明日も晴れて横根山から日本一の富士山が見えるかもしれないと2日間が始まった。秋のいろいろな虫は トノボ、バッタ、カマキリ、が いろいろ。そして彼岸花、コスモス、サルビア... と色とりどりに花が咲き、自然がいろいろ。そんな素晴らしい中で存分に体を動かして心行くまで楽しめました。


朝から「青竹の会」の方が行っていて下さるというところで途中、だんごも買うだけで、いっぴきの家へ直行とよった。お店では自分の食べたいだんごも選べる。「ボクはみたらし」「あんだんご」一番に店に入った子は、みたらしだんごも数え始めた。「1. 2. 3...」あ... 本数が少ないから6人しか買えないよと。だんごも買うのは2回目なのに前回、だんごの本数が買えないのを覚えているようである。結局、今回はご希望通りみたらしだんご、しほ... それぞれだんごの前に一列に並び、無事人数分買うことができた。お店を多量にした。

いっぴきの家には到着せず、理事長先生と悦子さんが出迎えてくれた。軽やかに2日間お世話になるというあいづを。そしていつものおじさく様に向い、手を合わせ「怪我をしないで元気に過す事をうけ」と真剣にお祈りした。その後は園長先生も、石を投げてはいけない、石垣に登ってはいけない、悪い所... などのいくつかの注意しなくてはならないことの約束を済ませおやつに。自分の買っただんごを忘れるとよく手に持ったおにぎりに頬張った。

ツトンボ、竹笛作り 指導して下さったのは“青竹の会”の方3人
 でした。朝、早から来て、子ども達のために
 準備して下さっていました。2つのグループに分かれ子ども達は
 丁寧に説明して下さいる青竹の会の方の話に真似て耳を傾けていた。
 ツトンボ作りの子ども達は 薄く切ったあるツトンボの羽に紙や布を
 かけた。横に二ある部分、縦に二ある部分とがあり 簡単そうに
 見えても話がよく聞いていないと間違えてしまう。きれいに仕上
 げた羽に細い棒をボンドでつけて 出来上がりマジックで模様を
 描いた。また竹笛の子ども達は ツとツとボンドでくっつけ 100まで
 数えると出来上がりになるが 「1、2、3…… 100」まで 声を出
 して数えているうちに お友達の声が身に入り間違えてしまい、
 気がついたりと 子ども達は真似りに数えていた。色染めも皆、丁寧に
 きれいに染め 集中してやっていた。自分で昔ツトンボのおもしろさ
 作り遊んで 楽しむという、二のふりた機会を下さって下さった“青竹の
 会”の方に感謝の気持ちでいっぱいです。子ども達も満足そう
 でした。出来上がった ツトンボと竹笛をあきら二つはよく遊んで
 いました。






 昼食後は虫探しが始まった。「せせ ちつて！」と
 虫かごの中には何匹かいるが「たくさん集めたよ不羨子。
 また、「ボクはかまきりしか捕まえたんだ」と草原を真剣に
 探している子。7~8人はかまきり探して「あ...いやあ、あれは
 ボクのかまきりだ」「ボクが一番に見つけたんだ」と夢中になっていて。
 コオロギも大きいコオロギ、小さいコオロギとあちこちにたくさんいた。
 「先手〇〇さんのコオロギ鳴いたよ」女の子もコオロギめがけて
 手を出していた。虫探しをしているうちに泥沼へと移動していった。
 「どんぐりころころ... お池にはおたまごめ(トビ)がでてきて...」と
 歌いながら泥沼にトビがいた。6人位の子も連ドラポットをまき上げ
 自然に裸足になり泥沼に誘われていった。「あ！いたヤコビ
 みてみて！」と手にヤコビ(トビ)を見せてくれた。トビも捕ま
 った。ぬるぬるとろろの感触を味わっていた。違うグループは
 1人1人に使われている丸太の玉でへび鬼が始まっていた。どん
 ぐり場所でも自然に遊びが展開され楽しんでいた。



いも堀り

いも堀り用のスノーレをばら下げて
出発です。途中 栗の下で



栗拾いをして小島さんの家へ向かう。歩くことも
慣れたもの 道路沿いを上手に歩いた。小島さんは
火田仕事をしていたが 木の道の姿を見れば走りこめて出て
くれた。あいつを済ませ 茶畑の間に歩き いも火田へ行き。いも堀り
スタートです。あつあつ入るいもを見せられる子。「ここにあるよ」
と見てあるよは所々わかる子「これは○○さん ころは○○さん」
としゃべっている子。あつあつで 歓声が上がり 大きな袋に入れて
いた。小島さんはバサバサと土いもを掘り 土いも堀り
始めた。土から堀り出し子と木の道へホーッと投げかける。
「いも可？」というも和合公で 食っているか 土いもはどつたか
知らずの子は しゃべりだして。土いもより 大きな土いもの方がおもしろ
いようだ。手に持てる カサにしたり 振り回したり 葉をのぞき
見られた。土の感触も味わたり。収穫を喜んでいもまたひとつ
いい経験ができた。



木工遊び いも堀り後は、いろいろな材木を使い、いろいろな物を作ってもいいし、トノボやバツツアヒヒを採っていてもいいし、それから自分のしたいことをしていいので(★)の話しで遊び出すのが、全員、木工遊びを好きになつた。

去年は丸い材木が少なかったのが、泣いてしまつたり、取りのこにたつてしまつたので、今回多目に用意してみた。ポイント、かまづら、くぎを使い、工夫しながら組み立てた。時計や立て看板、汽車、教壇などと前回よりも、形に仕上げていた。かまづらで「たてき」から「たてき」で「たてき」。くぎが「曲らう」といふを聞いて「ボ」で「たてき」と普段見られたい姿を見ることもできた。子どもも、ひらひらと集中してよくやっていた。かまづらの本数は少なかったが、貸し借りも上手にやり交わして使うこともできたし、体験したことにより「たてき」により「曲らう」といふくぎも「ボール」を使い「たてき」に「たてき」もいた。



そして……夕方 夕やけ空の下で入浴まで遊んだ。石垣登りをしたり。砂利の斜面を全速力で追いかけて。そして

ころはたぬい。さすが足腰がしっかりしているんだなあと思わせる。身のこたれも巧みであった。大きい石の上では二、三遊びが始まっていた。「お前はお姉さん、ボクは1ちゃん、ボクは偉大者のお兄さん」と楽しんでいた。その後はみんなの大好きなお風呂と夕食です。カレーライス。「明日は山登りをするんだからたくさん食べようね」と二杯食べるとお風呂出て1と2の子がモリモリとお腹膨らんでいました。

満腹に食べた子から今日、楽しかったこと8個キに書き上げて。いもほり、虫じ、たんぽぽを買い、たんぽぽをいもほりの思いを表現して。いよいよ夜のいもほりの家の探検です。まくらな夜道でも小走りに歩いていく。星や北斗星も見ることができた。そしてバーベキュー小屋で園長先生から「七匹きの小やぎ」の話がありました。じっと聞き入った。

そしてこのいもほりの家で見るとのてきたい珍しい「大きなイボカエル」を見て床に着いた。最初は興奮さめおはししていたがだんだん静かになり子と母連の寝息があらうから聞かなくなった。9時30分、全員就寝した。



2日目
横根山

朝、6時30分起床予定であったが6時頃より大騒ぎ…… そのため6時20分に起床する。着替えを

済ませ、お弁当を出しに出掛けた。そして子ども達の遊 虎谷を
かき立てる最高の場所で自然に出立。マントが飛ばした遊び
遊びが始まった。朝食後は小豆餅のお弁当作りです。お茶腹の
ニほんをウツクのせ。両手でおいきりを作り、おかしと一緒に
ハッパに詰めていた。皆、手際よく上手に作りあげ、ジュース、
ハッパ、おやつと一緒にハッパサックに詰めて準備OK! 出発です。



横根山は天気よく澄んだ空気。一連の山々。赤黄色の紅葉が始まった木々に囲まれ、とても気持ちのいい所でした。遠くに見えた象の鼻展望台まであつという間に着いてしまった。おいしい空気を吸いながら、この時分、空高く飛ぶ銀色にひかる飛行機を眺めながらおいしくお弁当を食べた。これから井戸湿原まで頂上まで歩かなくてはならないというので45分ほど食べ終えし、目的地へと向かった。登ったり、下ったり木々のトンネルをくぐったり。弱音も口からよく歩いた。一段一段高い階段を踏み締めて登る姿に、下くしく大それた山と改めて感じさせられた。赤や黄色にきれいに紅葉する井戸湿原も歩き頂上標高1375mに到着した。汗をかき一生懸命歩いた後のおやつは最高でした。



大自然の中でふたっぴりに仲間と過ごした二日間、はまた
 ひと楽しい思い出、喜び、自信につたわったあとまり、子育てにたのびの
 て(た)おいて(と)か、(保護者の皆様の)ご理解とご協力にありか
 と)ごまいました。また、差し入れ等お支遣いいただきましたありか
 いました。子ども達の食生活と管理して下さった小島さん、竹ノ本、竹尾を
 励まして下さった青町の会の皆様、いも畑の小島さん、皆様に心より
 感謝します。

